

大震災から3年



五浦の岬公園に展望慰霊塔

大震災から3年目の3月11日、展望慰霊塔の完成披露式典が開かれました。震災でなくなった方の遺族、復興に携わった建設業親交会役員、地元漁協関係者、さらに平潟・大津の小学生が参列しました。

2時46分、防災無線での

呼びかけに合
わせ、一同が
黙祷を捧げま
した。大津じやんがら踊り
が奉納され、さらに地元の
漁船35隻が慰霊と福島原発
事故の早期収束を求めて海
岸を曳航しました。

展望慰霊塔は、鎮魂と観
光の集客にと北茨城市が五
浦岬公園に設置したもので
す。鉄筋コンクリート造の

4層階段、高さ約16m。海
抜は約35m。塔内には「希
望の鐘」が据えられ、かた
わらには豊田稔市長が詠ん
だ詞を刻んだ「祈りの碑」
も。

市では、東日本大震災の
犠牲者を慰霊し、震災の教
訓を風化させることなく後
世に伝えるとともに、復興
と飛躍の象徴としたいとし
ています。



いつまでも生き活きと、自分らしくあるために

介護予防フェスティバル in 北茨城2014

介護予防をすすめるイベ
ントが北茨城市で開かれま
した。茨城県理学療法士会
(斉藤秀之会長)の主催で、
約200人の方が参加しま
した。

県健康プラザ管理者で、
医師の大田仁史先生が「住
民参加による介護予防に向
けて」と題して基調講演。

さらに、地元の介護支援員・
看護師などによるシンポジ
ウム、「ノルディックウォー
キング」についての講演と
実技、体力測定や健康相談、
シルバーリハビリ体操の実
技など、盛りだくさんの企
画でした。

シンポジウムでは、北茨
城市内で働いている4氏が
報告。佐藤律子(市立総合
病院のソーシャルワーカー)、
一瀬将弘(滝病院介護事業
所管理者・介護支援専門員)、
菊池由佳(いそはらクリニッ
ク訪問看護ステーション看
護師)、鈴木和江(北茨城

大田先生は、団塊世代が
高齢化して医療・介護を支
える人口構成が逆転するな
かで、自分たちの健康は自
分たちで守る意識が大切で
あり、住民ボランティアと
専門家ボランティアの連携
が重要になると強調しまし
た。また、ご自身が発案さ
れ茨城県で広がっているシ
ルバーリハビリ体操の活動
が介護予防に大いに役立つ
ていることも紹介されまし
た。



地域自立支援センターの理
学療法士)の各氏で、ご自
身の仕事の役割や実際の仕
事、かかえる課題について
も報告がありました。

患者の相談に応じるとと
もに、家族へのケアも大切
であること、また医師との
連携のむずかしさもあるよ

うです。さらに、市立病院
ではソーシャルワーカーは
1人だけしかおらず、市内
でも数人しかいないそう
です。訪問看護師がなかなか
増えないこと、介護支援員
やケアマネージャーなど、
関係する専門家の不足も浮
き彫りになりました。

参加した鈴木やす子市議
は、「大田先生の、やさしい
語り口ながら厳しい実態を
話されることに、介護予防
にかける熱意を感じました。
また、介護・医療の最前線
で働いている方からは、そ
の重要さとともに大変さも
語られました。仕事への誇
りと穏やかな話しぶりが印
象的でした。医療・介護職
の労働条件の改善は政治の
急務だと思う」と述べてい
ます。



3月9日、
中郷第一小
学校をメイ
ン会場に市
防災訓練。



復興支援チャ
リティコンサ
ートで消防車両の
寄贈が報告され
ました(3月9
日、市民体育館)



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市政報告
ご相談は
お気軽に
市議会議員
鈴木やす子
42-2462